

1面からの続きです

率向上対策の強化等に取り組んだ成果であると考えています。

職員数については、組織編成の見直し、アウトソーシングの推進などにより、平成 20 年度からの 8 年間で、395 人だった職員数を、平成 28 年度当初では 376 人、19 人の削減を行いました。職員人件費は、平成 20 年度と 28 年度の当初予算比較では、5 億 7,764 万 5 千円、15.1%の大幅な縮減を図っています。

③市政の重要事項について

【総合戦略】

総合戦略は、まち・ひと・しごと創生法に基づき、将来の人口減少社会に対応するため、定住化の推進と活力ある地域社会を維持していくための中長期的な戦略ですが、福生市では、新 5G 施策をベースとして策定しました。



今後は、単なる目先だけの定住化対策をするのではなく、将来にわたり持続可能な自治体であり続けるために、なぜ、その施策を実施するのか、その意味は何かといった本質を見きわめつつ、この総合戦略を推進します。

【新公会計制度】

福生市では、今年度から現行の会計方式である現金主義の単式簿記に加えて、発生主義・複式簿記の会計処理も併せて実施します。財務情報を市民にわかりやすく開示することで説明責任の履行及び財政の効率化・適正化に向け、引き続き努力していきます。

【マイナンバー制度】

マイナンバー制度の導入により、社会保障や税の給付と負担の公平化、行政事務の効率化、市民の利便性の向上や手続の簡素化等の効果が期待されます。今後とも、セキュリティ対策の強化を図るとともに、事務手続の確実かつ円滑な遂行に努めていきます。

【中心市街地活性化】

中心市街地の活性化を図ることを目的として福生市商工会が企画及び運営を行う「(仮称)福生駅西口まちづくり協議会」を支援していきます。

【防災食育センター（災害時対応施設）】

防災食育センターは、災害時の応急給食の実施や避難所の整備、中学校の完全給食の実施等、多岐にわたる機能を兼ね備えた施設です。平成 29 年 9 月の稼働を目指し、着実に事業を推進していきます。



防災食育センター完成イメージ

④横田基地について

福生市は、行政面積の約 3 分の 1 を横田基地に提供しており、終戦直後から 70 年の長きにわたり、基地を抱えた行政運営を行っています。その存在は、航空機の騒音公害をはじめ、都市計画への影響や地域経済の発展阻害要因

となるなど、市民生活に大きな影響を与えています。このため、私は、騒音防止対策や安全対策の推進、航空機事故の防止など、横田基地の整理・縮小・返還を含めた必要な措置を講ずるよう、事あるごとに国や米軍に対して要請を行い、更に基地周辺の 5 市 1 町でも連携して、問題の解決に向けて取り組んできました。市としては、横田基地は無いことが望ましいのは当然ですが、安全保障に関しては国家間の協力関係の問題であり、これまで、基地の存在を前提として、現実的に対応してきたところです。

このような状況の中、昨年 5 月に CV-22 オスプレイの横田基地配備計画が、国からの事前説明もなく突然新聞報道されたことは、私としては大変遺憾なことでした。

私は報道直後から、市長として、また横田基地周辺 5 市 1 町で連携して、配備計画についての具体的な説明や迅速かつ正確な情報提供等を国や米軍に対して、全力で要請を行ってきました。しかし、説明が行われたのは配備報道から 5 か月も過ぎた昨年 10 月になってからでした。その内容についても、市民の懸念や不安を払しょくできるような十分なものではなかったという認識です。

安全保障は国の専管事項であるということも理解していますし、最近の北朝鮮による人工衛星と称する事実上のミサイル発射訓練や、中国による度重なる領海侵犯といった情勢を鑑みますと、国防に関して、深く考えを巡らすことがあります。しかし、基地に隣接するわが市の市長として、市民の安全・安心の確保については最優先事項です。

今後も引き続き、市民の安全・安心の確保に向けて、国や米軍に対して強く要請を行っていくとともに、基地周辺 5 市 1 町で十分な連携を図り、基地問題の解決に取り組みます。

平成 28 年度予算について

①予算の概要

平成 28 年度予算は、将来の人口構造や市民ニーズの変化等を的確に捉え、市民サービスの維持向上を図りつつも、中長期的かつ行政のスリム化を図る視点に立ち、予算編成を行った結果、一般会計の予算規模は 248 億 8,000 万円、前年度比で 21 億 3,000 万円、9.4%の増ですが、一般財源の比較では、8,491 万 8 千円、0.6%の増に抑えています。

予算編成に当たりましては、財政調整基金の取り崩しや臨時財政対策債の借り入れを可能な限り圧縮する方針のもと進めましたが、市税が大きく伸びない中、平成 27 年度に引き続き、財源不足の状況は変わっていません。歳出では、職員人件費、物件費、補助費等、公債費などが減となる一方、普通建設事業、扶助費等が増となることから、市民サービスを維持するため、歳入において臨時財政対策債を 4 億円借り入れ、また、これまで積み増しをしています財政調整基金から 2 億 8,000 万円を繰り入れ、財源調整をしました。

②総合計画に基づく施策について

【希望に満ちた明るいひとづくり】

英語教育推進事業により、英語教育指導助

手、ALT を中学校へ常駐させるとともに、小学 6 年生及び中学 3 年生を対象に、英語検定の公費での受検を行い、児童・生徒の英語力の向上を図ります。

また、福生第四小学校をコミュニティ・スクールとして指定します。これにより、保護者や地域の方々が、一定の責任と権限を持って学校運営に参加し、そのニーズを迅速かつ的確に学校運営に反映させていきます。

また、消防署の建て替え工事に伴い、現在の扶桑会館用地を東京都に無償貸与するため、扶桑会館の代替え施設の新築工事に向けた設計を行います。

【だれにもやさしい安全なまちづくり】

今年は福生市消防団が東京都の代表として、長野県で行われる全国大会へ出場します。20 年ぶりとなるこの快挙に活動交付金の増額などを実施します。

福生駅から国道 16 号線をつなぐ都市計画道路 3・4・7 号富士見通り線の整備では、平成 28 年度から用地買収を順次実施し、事業を着実に進めます。

【潤いのある豊かなくらしづくり】

第二市営住宅 A 棟にエレベーターを設置し、バリアフリー化を図っていきます。この工事が完了しますと、第二、第三、第四市営住宅すべてにエレベーターが整備されます。

【安心に満ちたまちづくり】

杉ノ子第三保育園の園舎建替えに伴い、その建設費の一部を補助し、待機児童解消を進めるとともに、保育サービスの充実を図ります。また、地域の子育て支援機能の充実を図るため、子ども応援館内に子育てひろばを開設します。さらに、高齢者の皆さんへの配食サービスの拡充を図り、高齢者の日常生活を支援します。

【活力とにぎわいのあるまちづくり】

ロケ支援業務や各種イベントへの観光ブースの出店業務等を「くるみる ふっさ」に一本化し、観光事業の推進と都市型観光のさらなる充実を図ります。また、中小企業振興として、開業資金の融資に係る信用保証料の補助について、これまでの半額補助から全額補助に増額するなどし、市内創業者への支援の強化を図っていきます。



くるみる ふっさ

【ともに助け合うまちづくり】

加美公会堂の会館建設を助成することにより、地域の活動拠点の耐震化を図るとともに、地域コミュニティの活動促進を支援します。

【市民と行政がともに進めるまちづくり】

円滑な議会運営に資するため、老朽化した議場放送設備を更新します。

また、市のさまざまな取り組みを強く発信するために、市ホームページのリニューアルを平成 28 年 9 月に実施します。さらに、地域活性化事業の拠点として、より有効的な活用を図るため、もくせい会館を新築します。